

令和元年度学校評価 中間評価報告

石川県立錦城特別支援学校
校 長 宮 本 直 哉

1 評価の概要

本校は今年度、以下の 4 点を重点目標に掲げ、取り組みを進めています。

- (1) 児童生徒の主体性を引き出すための授業改善と専門性の向上を図る。
- (2) 系統的にキャリア教育を推進し、進路支援の充実を図る。
- (3) 児童生徒の安心・安全に配慮した学校づくりを推進する。
- (4) 教職員それぞれの立場で働き方改革の意義を理解して取り組みを進める。

中間評価では、以下のような評価を実施しています。

(1) 児童生徒の主体性を引き出すための授業改善と専門性の向上を図る。

- ① チームティーチングの効果的な手法について授業実践の中で取り組んでいるか。(教員対象)
- ② 授業参観等で授業内容に満足されているか。(保護者・関係機関の方・授業参観参加者対象)

(2) 系統的にキャリア教育を推進し、進路支援の充実を図る。

- ① 錦城版キャリア教育プログラムを個別の教育支援計画等に位置づけ個別のねらいに対して向上が見られたか。(個人内評価)
- ② キャリア教育の取り組み内容に満足されているか。(保護者対象)
- ③ 個に応じた方法であいさつの仕方に向上が見られたか。(チェックシート確認)
- ④ キャリア教育や進路に関する知識量に向上が見られたか。(教員対象)

(3) 児童生徒の安心・安全に配慮した学校づくりを推進する。

- ① マニュアルやヒヤリハット、日常の安全管理に留意した行動をとっているか。(教員対象)
- ② いじめの未然防止のため小さなトラブルを見逃さずに対応しているか。(教員対象)

(4) 教職員それぞれの立場で働き方改革の意義を理解して取り組みを進める。

- ① 会議の効率化のために具体的な行動を行っているか(教員対象)

2 アンケート結果と分析

(1) 児童生徒の主体性を引き出すための授業改善と専門性の向上を図る。

- ① チームティーチングの効果的な手法について授業実践の中で取り組んでいるか。(教員対象)
5項目中4項目以上取り組んでいると答えた職員の割合
結果 小92.9% 中50% 高66.7% 分・訪100% **全体74%**
達成度判断基準 A80%以上 **B60%以上** C50%以上 D50%未満
達成基準 A以上

チームティーチングを実施するうえで必要な5項目のうち、いくつ取り組んでいるかアンケートを行いました。4項目以上取り組んだのは全体の74%でB評価となりました。達成基準をA80%以上とじていましたので、達成していません。

項目ごとの取り組み状況では、事前に目標や支援内容を共通理解して授業に取り組む項目については全体に実施数が高かったです。授業についての話し合いはほぼできていると言えます。しかし、どの学部にしても「事前に評価の仕方について共通理解を図っている」については、半数程度の実施にとどまっています。今年度から学校研究でも評価に視点をおいて取り組み始めたところです。効果的な指導につながるよう「評価」の内容について更に検討し、授業改善に努めていきます。

- ② 授業参観等で授業内容に満足されているか。(保護者・関係機関の方・授業参観参加者対象)
授業への満足度(4項目) **学校公開・授業参観 95.6%**
達成度判断基準 **A90%以上** B80%以上 C70%以上 D70%未満
達成基準 A以上

学校公開や授業参観時に参加された方々にアンケート記入をお願いしました。アンケート内容は、「授業内容のわかりやすさ」「教員の児童生徒へのかかわり方」「使用教材の工夫」「落ち着いて学習できる環境」の4点を項目としています。のべ69人の方から回答を得ています。評価は「A:とてもそう思う」「B:そう思う」「C:あまりそう思わない」「D:そう思わない」の4段階です。

結果は学校公開が96%、授業参観が93%といずれもA評価となりました。多くの方が満足されており、評価としては良いのですが、一部C、D評価がありました。今後とも、児童生徒の状態の把握に努め、一人一人に応じた授業改善に取り組んでいきます。

これからも授業参観等にぜひご参加いただき、ご意見等をお聞かせいただければ幸いです。

(2) 系統的にキャリア教育を推進し、進路支援の充実を図る。

- ① 錦城版キャリア教育プログラムを個別の教育支援計画等に位置づけ個別のねらいに対して向上が見られたか。(個人内評価)
個別設定の項目で向上が見られた児童生徒の割合
小84.6% 中47.1% 高61.3% **全体62.3%**
達成度判断基準 A90%以上 B80%以上 C70%以上 **D70%未満**
達成基準 B以上

児童生徒一人一人のキャリア発達を育成する具体的な実践を行い、個別のねらいに対して向上が見られたかどうかで達成度を判断しました。小学部ではB評価、中学部・高等部ではD評価となっています。半期での取り組みでは十分な向上と言えない状況です。まだ、年度途中ですので、児童生徒一人一人に応じた具体的な実践をより一層続けていきます。

- ② キャリア教育の具体的な取り組み内容に満足されているか。（保護者）
 小93% 中70% 高84% **全体82.2%**
 達成度判断基準 A90%以上 **B80%以上** C70%以上 D70%未満
 達成基準 B以上

保護者を対象にアンケートの記入をお願いしました。小学部は93%、中学部は70%、高等部は84%と満足度が高く、全体では82.2%と、結果はBとなり、達成基準を満たすことができました。保護者は子どもの「キャリア発達」をしっかりと感じられていると考えられます。また、教員の子ども一人一人におけるねらいが的確であったとも言えます。懇談では個別の教育支援計画や個別の指導計画と合わせて錦城版キャリア教育プログラムを提示しながら説明をしており、より具体的な内容が伝わったのではないかと考えられます。なお、中学部では満足度がCにあたるため、ねらいの見直しや指導内容の充実、情報共有に視点を置いて進めていく必要があると考えられます。

今後も一人一人のキャリア発達をしっかりと見据えながら、工夫して取り組んでいきます。

- ③ 個に応じた方法であいさつの仕方に向上が見られた児童生徒の割合（チェックシート確認）
 小92.3% 中70.1% 高74.2% **全体78.3%**
 達成度判断基準 A90%以上 B80%以上 **C70%以上** D70%未満
 達成基準 B以上

あいさつチェックシートを用い6月と9月を比較して、個人の向上の度合いを確認して評価しました。全体では78.3%なので、まだ、達成基準に達成していません。特に中学部生徒の挨拶の向上は小学部・高等部の児童生徒よりも割合が低くなっています。

毎月のあいさつ運動では、全校児童生徒の盛り上がりはあり、個別にみると本人に合わせた方法で挨拶を継続的に取り組んでいる様子も見られます。また、校外活動においても挨拶が日常的に習慣となっている様子も見られました。

児童生徒の能力に応じた挨拶をする力は、社会に出る際に必要とされるものです。今後も取り組みを進め、向上したとする割合を増やしたいと考えています。

- ④ キャリア教育や進路に関する知識量に向上が見られたか。（教員対象）
 小76.9% 中77.3% 高90.9% 分・訪90.0% **全体84.3%**
 達成度判断基準 **A80%以上** B70%以上 C60%以上 D60%未満
 達成度 B以上

昨年度作成した「進路支援の手引き」により現状に合った情報を加え改定しました。職員には2つの項目をあげてアンケートをとりました。1つ目「進路支援の手引きを参考に、進路について保護者の質問に答えられるか」では、小学部がわずかに達成基準に満たなかったです。理由には小学部の保護者や教員にとっては高等部卒業という出口が遠く、具体的な見通しが持てず十分に意識を高めるに至っていないことがあげられます。一方で中学部、高等部では達成基準を満たしています。次に2つ目「福祉サービス事業所のサービス内容の生活介護・就労移行支援・就労継続支援A型・B型などの違いがわかるか」では小・中・高等部ともに達成基準を満たしています。これは教員一人一人が進路の手引きを熟知しているためと考えられます。

全体を通しての結果は、2項目並びに小中高等部合わせた達成度や平均値を見ると、結果はAと大変高い基準に達しています。今後も有効に活用し、より適切な指導支援を実施していきます。

(3) 児童生徒の安心・安全に配慮した学校づくりを推進する。

- ① マニュアルやヒヤリハット、日常の安全管理に留意した行動をとっているか。(教員対象)
- | | | | | | |
|------|--------|--------|--------|----------|----------------|
| A: | 小30.8% | 中45.5% | 高54.5% | 分・訪40.0% | <u>全体45.1%</u> |
| A+B: | 小100% | 中100% | 高95.5% | 分・訪100% | <u>全体98.0%</u> |
- 達成基準 A50%以上かつA+Bの割合100%

具体的な行動例(自由記述1項目を含む7項目)を示し、実践しているかどうか教員にアンケートをとりました。6項目以上実施をA、5項目以上実施をBとして実践している項目数で割合を出しました。

A+Bの割合が100%には達していませんが、98.0%と高い割合を示しています。しかし、Aの割合がどの学部もまだまだ低い値となっています。また、C評価もありました。項目別に分析すると「教室の整理整頓を行い不要物が無い」、「担当している児童生徒の緊急マニュアルを確認する」の2項目において10名以上の教員が実施していませんでした。なお、後者については個別の緊急マニュアルのある児童生徒に直接かわっていない場合もあるためと考えられます。

今後も教室の整理整頓、危機管理マニュアルを十分に活用し、個々の児童生徒の安全に関する配慮事項を考慮して指導支援を行うように取り組んでいきます。

- ② いじめの未然防止のため小さなトラブルを見逃すことなく対応していた。(教員対象)
- | | | | | | |
|------|--------|--------|--------|----------|----------------|
| A: | 小15.4% | 中27.4% | 高36.4% | 分・訪60.0% | <u>全体31.4%</u> |
| A+B: | 小100% | 中100% | 高100% | 分・訪100% | <u>全体100%</u> |
- 達成基準 A50%以上かつA+Bの割合100%

Aの割合は31.4%とやや低い割合ですが、A+Bの割合が100%に達しています。6月に教員による「いじめ兆候チェックシート」でアンケート調査を行いました。小さなことでも気になるところをチェックし教員間で共有することで、いじめにつながらないように取り組んでいます。

しかし、Aの割合が半分に達していません。今後は、Aの割合が増えるよう、これまで以上に児童生徒の様子を見守るよう取り組みを進めていきます。

(4) 教職員それぞれの立場で働き方改革の意義を理解して取り組みを進める。

- ① 会議の効率化のために具体的な行動を行っているか(教員対象)
- | | | | | | |
|------|--------|-------|--------|----------|----------------|
| A: | 小14.3% | 中9.0% | 高13.6% | 分・訪40.0% | <u>全体15.4%</u> |
| A+B: | 小71.4% | 中100% | 高68.2% | 分・訪100% | <u>全体78.9%</u> |
- 達成基準 A50%以上かつA+Bの割合100%
- ※勤務時間調査結果の分析も加味して評価する

具体的な行動例(自由記述の1項目を含む5項目)を実践しているかどうかを教員にアンケートをとりました。5項目実施をA、4項目実施をBとしており、実践している項目数で割合を出しました。

全体ではAが15.4%、A+Bは78.9%で、いずれも達成基準には届いていません。学部によってはA+Bが100%もありますが、2～3項目の実施にとどまった教員も多かったです。5項目の内訳では、実践数が多かったのは、「配布資料に目を通して会議に臨む」「会議時間を短くするよう意識している」が94%、「提案や説明の際に「何分程度」等と決めて臨む」が88%でした。一方で「会議資料は2日前までに配付する」が55%でした。後者については時間に余裕がなく難しいと理由を述べた教員も多かったです。個人の状況に合わせて更に意識した取り組みが望まれます。

また、勤務時間の集計からは時間外勤務は前年度比、4～9月全体では若干減少しています。月別にみると、4・5・9月で減少傾向、6・7・8月で上昇傾向でした。5月は連休が多く、9月は朝型勤務を実施した期間であることが理由と考えられます。個人集計では特定の職員に時間外勤務が多かったです。業務の平準化に向けて仕事量や重なりなどを把握し、協力体制の工夫を行っていきます。